

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-04	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	青少年委員事務費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	高橋・森屋	内線	3351	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-05-01	青少年委員事務費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	33 年度	根拠	荒川区青少年委員の設置に関する要綱			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年委員が地域の子ども会や青少年団体、PTAへの活動支援を行うことにより、子ども達の体験活動が充実するとともに、地域の結び付きを深め、青少年が健全に育つ環境と醸成する。						
対象者等	地域の子どもたち 地域の青少年関係団体（荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年育成地区委員会等） 小・中学校PTA						
内容	<p>【委員数】現員40名 【報酬】月額8,250円</p> <p>【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員）</p> <p>【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ、相当な実績をあげつつある者に委嘱する。</p> <p>【任期】2年間（6期まで再任可）</p> <p>【対象者】区内在住・在勤者で委嘱時に満60歳未満の者</p> <p>&lt;荒川区青少年委員連絡会&gt;・・・委員の自主組織（会長、副会長3名、会計2名、会計監査3名）</p> <p>【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会</p> <p>【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会</p> <p>【地域部会】南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里の各ブロック ... 青少年育成地区委員会事業への協力等</p>						
経過	<p>昭和28年度 東京都青少年委員制度設置（総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名）</p> <p>昭和30年度 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年）</p> <p>昭和33年度 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定</p> <p>昭和38年度 青少年委員制度10周年記念行事</p> <p>昭和39年度 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管</p> <p>昭和48年度 青少年委員制度20周年記念行事</p> <p>昭和58年度 青少年委員制度30周年記念行事</p> <p>平成2年度 青少年委員40人体制となる</p> <p>平成5年度 青少年委員制度40周年記念行事</p> <p>平成15年度 青少年委員制度50周年記念行事</p> <p>平成25年度 青少年委員制度60周年記念式典実施</p>						
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きい。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		5,720	5,284	5,766	5,399	5,667	5,771
決算額（26年度は見込み）		5,386	4,806	5,006	4,983	5,167	5,187	5,775
人件費等		8,338	7,045	7,988	7,622	6,196	9,149	
減価償却費				2,760	2,799	2,420	3,718	
【事務分担量】（%）		102	90	95	90	75	110	
合計（+ +）		13,724	11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	5,775
特定財源	国	0	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	13,724	11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	5,775
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	青少年委員連絡会の実施事業数	18	19	16	17	20	18	20
	青少年委員連絡会の協力事業数	36	32	34	34	30	30	30

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	委員報酬	3,960	報酬	委員報酬	3,952	報酬	委員報酬	3,960
報償費	研修会講師謝礼	23	需用費	賄・消耗品・印刷等	575	需用費	賄・消耗品・印刷等	846
旅費	宿泊研修会等旅費	187	旅費	宿泊研修会等旅費	190	旅費	宿泊研修会等旅費	382
需用費	賄・消耗品・印刷等	621	使用料等	宿泊研修会バス借上等	173	使用料等	宿泊研修会バス借上等	303
役務費	委員保険料等	83	負担金補助等	都連合会分担金	129	負担金補助等	都連合会分担金	186
使用料・賃借料	宿泊研修バス借上等	164	役務費	委員保険料等	114	役務費	委員保険料等	75
負担金補助・交付金	都連合会分担金等	129	報償費	研修会講師謝礼	54	報償費	研修会講師謝礼	23

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	青少年委員連絡会定例会への出席率（％）	77.6	71.1	76.6	77	80	出席者数 / （定例会数*40名）
	参加（関連）事業総数（事業）	51	50	48	50	50	主催及び協力事業数

（問題点・課題分析）	青少年の現状を踏まえた、事業のあり方の検討 主催事業と協力事業の整理
他区の実況	（実施 19 区 未実施 3 区 不明 0 区） 平成25年度現在の委員数は、千代田24,中央24,港25,文京30,台東37,墨田28,江東46,品川30,目黒34,大田60,*世田谷64名,渋谷32,杉並43,北64,板橋59,練馬66,*足立107,葛飾73,江戸川61 「*」は、東京青少年委員会連合会（都連）に未加入を示す。

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
委員の自主性を尊重しながらもグループワーカーとしての活動の規模や内容を考慮し、事業のあり方を検討する。	26年度の対応を踏まえ、引き続きよりよい事業のあり方を検討する。
事業効果や必要性を検証し、他自治体の青少年委員活動等も参考に、主催事業及び協力事業の見直しを図る。	26年度の取り組みを踏まえ、事業の見直し及び新たな事業展開を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために寄与している。

議（要旨）	
-------	--



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
食糧費	審査会賄	1	需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	22
一般需用費	記念品・筒	9	役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	16
役務費	表彰状筆耕	6						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	団体表彰	1	1	1	2	2	
	個人表彰	1	1	1	2	2	

問題点・課題 (指標分析)	青年団体については、荒青連に推薦依頼をしているが、継続的に活動している新しい被候補者がいない。
	( 実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区 )
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
推薦団体からの推薦に限らず、地域活動に貢献している団体・個人を把握し、多くの推薦個人・団体が審査の対象となるよう、情報収集を行う。	平成26年度の改善内容を踏まえ、推薦候補者が増えるように、引き続き情報収集に取り組む。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために貢献していただくうえで必要である。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-06	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	青年団体リーダー研修会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	宮前
				内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成 41年度	根拠					
終期設定	有 無 平成23年度	法令等					
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画			
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区内の青年リーダーが、団体運営に必要な理論と実技を研修することにより、青年団体リーダーの資質を向上させると共に、青年団体活動の活性化につなげるようにする。						
対象者等	区内の青年団体のリーダー等						
内容	<p>区内の青年が、青年団体のリーダー等としての知識・資質を向上させ、自覚を持つきっかけとなるよう、区内の青年同士や他自治体の青年団体等と交流を図り、また資質・技術向上のための研修を行う。</p> <p>平成23年度（平成24年3月21～22日、岩手県釜石市）は、成人の日のつどいの実行委員である青年の研修として、荒川区の友好交流都市であり、東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市を訪れた。被災地の現状を視察すると共に、「成人の日のつどい」で新成人が作成した「希望」の鶴文字のタペストリーを釜石市の青年に直接手渡し、荒川区と釜石市の青年の交流を図った。</p>						
経過	<p>【交流・研修場所等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度 長野県富士見高原</li> <li>・平成12年度 埼玉県荒川村</li> <li>・平成13年度 福島県福島市</li> <li>・平成14年度 新潟県吉川町</li> <li>・平成15年度 群馬県上野村</li> <li>・平成16年度 未実施</li> <li>・平成17年度 群馬県草津町</li> <li>・平成18年度 未実施</li> <li>・平成19年度 福島県小野町</li> <li>・平成20年度 福井県福井市</li> <li>・平成21年度 静岡県静岡市</li> <li>・平成22年度 群馬県前橋市</li> <li>・平成23年度 岩手県釜石市（区内青年である成人の日のつどい実行委員の研修として実施）</li> <li>・平成24年度～ 荒川区青年団体連合会の活動が厳しく、参加可能な青年リーダーの不足により未実施</li> <li>・平成26年度 青年団体連合会の自主活動として、実施予定</li> </ul>						
必要性	青年リーダー候補者が他自治体の青年活動を知り、活動活性化につなげるためのリーダー研修会の必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		822	440	479	880	0	0
決算額（26年度は見込み）		706	229	222	528	0	0	0
人件費等		1,355	1,303	1,657	3,439	826		
減価償却費				552	1,368	323		
【事務分担量】（%）		16	13	19	44	10		
合計（+ +）		2,061	1,532	2,431	5,335	1,149	0	0
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		2,061	1,532	2,431	5,335	1,149	0	0
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	交流した自治体	福井県福井市	静岡県静岡市	群馬県前橋市	釜石市	なし	なし	なし
	参加者数	16人	9人	13人	14人	なし	なし	なし

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費		0						
職員旅費		0						
一般需用費		0						
使用料・賃借料		0						
負担金補助・交付金		0						
役務費		0						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	参加者数（人）	14	0	0	0	0	
	青年団体連合会の加盟団体数	5	5	5	5	10	

（問題点・課題分析）	対象となる青年リーダーが加盟している荒川区青年団体連合会の活動実態に合わせて、実施方法を検討する必要がある。 青年団体連合会の活動に限らず、青年リーダーの発掘や育成を目標とする新たな研修内容・方法を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	荒川区青年団体連合会が、対象である青年リーダーを育成できるよう、自主事業等（他自治体とのリーダー交歓会等）を通して協力する。	青年団体連合会と協力し、研修を実施する。
	新たな青年リーダーを発掘するため、成人の日のつどい実行委員や区内各団体への声掛け、組織化を図る	新たな青年リーダーが何を求めているか、企画から参加してもらい、より効果的な研修内容とする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
改善・見直し	継続	青年団体連合会への加盟団体及び団体構成員の減少等により活動が縮小している現状を踏まえ、青年団体の新たな育成・支援策を検討すると共に、連合会以外の青年リーダーを発掘する。

議会（要旨）	H24 予特 H25 予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区でも支援を。 青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
--------	------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-07	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	松本
				内線	3354		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-07-01	心身障がい者青年教室					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	41年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者が、継続的・計画的な講座を受講することにより、余暇活動を充実させるとともに、自主性・社会性・協調性を身につけることができるようにするため支援する。						
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び区内在住・在勤の心身障がい者。						
内容	<p>知的障がい者の知識や技能の習得や余暇活動の充実、個性や特性を發揮する場の創設を目的に、教室を開催する。</p> <p>【会場】荒川区立第一中学校他                  【日時】年間17回、日曜日、午前9時15分～（半日または1日）                  【内容】クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花・スポーツ）、学級活動、校外学習                  水泳・室内レク、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展                  【協力】保護者、家族・手をつなぐ親の会・青少年委員・荒川区水泳連盟・障害者スポーツ指導員</p>						
経過	昭和41年度 職業実習科卒業生を対象に開設（年22回） 昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始 平成14年度 作品展会場を区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更 平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更 平成22年度 スポーツクラブを新設、6クラブ体制に。 学級活動名称を毎年受講生の希望でつけるように変更（旧：全員スポーツ） 平成24年度 旧真土小が使用不可になったことに伴い、お楽しみ会の実施場所を生涯学習センターへ移行。 そのため、参加させてもらっていた同時開催の手をつなぐ親の会の餅つき会も無くなった。 平成25年度 お楽しみ会で「クリスマス会」を開催した 平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施						
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・社会性・協調性、教養を身につけることを支援する事業として必要である。 また、継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 常勤、非常勤の他、民間講師やボランティアによって運営されている。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,908	2,063	2,271	2,176	2,296	2,217
決算額（26年度は見込み）		1,734	1,952	2,097	1,857	1,942	2,100	2,243
人件費等		8,973	9,326	10,360	9,651	9,047	9,670	
減価償却費				5,229	5,443	5,486	6,861	
【事務分担量】（%）		89	170	180	175	170	203	
合計（+ +）		10,707	11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	2,243
実績の推移	特定財源							
	国							
	都							
	その他							
	一般財源	10,707	11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	2,243
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	延べ参加受講生数（人）	909	1,018	1,058	1,135	1,076	1,074	1,394
	受講生数（人）	63	71	75	83	82	81	82

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師等謝礼	1,618	報償費	講師謝礼	1,683	報償費	講師謝礼	1,804
旅費			使用料等	作品展会場付帯設備、バス借り上げ等	262	使用料等	作品展会場付帯設備、バス借り上げ等	264
食糧費	合同レク大会来賓賄等	11	需用費	消耗品費等	90	需用費	消耗品費等	106
一般需用費	消耗品	75	役務費	申込八ガキ等	65	役務費	申込八ガキ等	65
役務費	申込八ガキ等	69	旅費	職員旅費	0	旅費	職員旅費	4
使用料・賃借料	作品展会場付帯設備、バス借上等	169						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	受講生(人)	83	82	81	82	83	現状を維持する
	平均参加率(%)	81	77.6	78.1	90	100	各回参加率合計 / 開催回数

（問題点・課題） （指標分析）	【受講生増加への対応】 21年度より、一中・尾久八幡中に加え、王子・墨田・足立特別支援学校や区内知的障がい者関連施設等幅広く周知したところ、受講生が大幅に増加した。22年度はスポーツクラブを新設し、クラブ活動の選択肢を増やしたが、今後も引き続きプログラムの整備が必要である。
	【スタッフ不足・高齢化】 受講生の増加に伴い、従事するスタッフが不足している。また、スタッフの高齢化により、若い世代のスタッフの育成が急務である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
アンケートを実施し、受講生・保護者・スタッフのニーズを参考にしながら、幅広い年齢層に対応できるようなプログラムを検討する。	平成26年度の検討をふまえ、受講生等のニーズに合わせた内容を実施する。
新たなスタッフを育成すべく、体験ボランティアの受け入れを積極的に推進すると共に、体験終了者のスタッフ参加を促進する。	スタッフが柔軟に参加できるように、参加方法の見直しを行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	心身障がい者の自主性・社会性・協調性を養うため、継続して実施する。

議（要旨） 会（問） 質（状）	24二定（H24.6） 知的障がい者が学び成長できる場の支援の充実を
-----------------------	------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-08	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	あらかわ青年大会		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	宮前	内線	3352	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-02	あらかわ青年大会					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	38 年度	根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	青年活動等を活性化するために、青年たちが交流の場及び青年リーダーの育成の場として実施する「あらかわ青年大会」の事業実施を支援する。						
対象者等	あらかわ青年大会実行委員会（荒川区青年団体連合会加盟団体及び構成員が中心となって構成）大会参加（ステージ鑑賞など）は、区民一般						
内容	あらかわ青年大会実行委員会が、青年たちの交流や地域の活性化を目的として実施する事業に対して、事業費の全部または一部を補助する。 【実施内容】 平成23・24年度は未実施 ・平成20年度(10月24日)・・・「路まつり」として、あらかわ遊園アリスの広場を主会場に、出演者、観客、スタッフが一体となって楽しめるプログラムを開催 ・平成21年度(10月25日)・・・「路まつり」として、尾久小学校校庭及び熊野前商店街において、ソーランやアカペラ、カッポレ等を行った ・平成22年度(10月17日)・・・「路まつり」として、尾久小学校校庭及び熊野前商店街において、ソーランやタップダンス、北豊島学園パトクラブのパレード等を行った ・平成25年度(3月22日)・・・「アリストック」として、あらかわ遊園アリスの広場において、各種音楽団体等が演奏を行う野音楽祭を実施した。						
経過	平成17～20年度 平成21・22年度 平成23・24年度 平成25年度	「あらかわ路まつり」 会場：あらかわ遊園・アリスの広場 「あらかわ路まつり」 会場：尾久小及び熊野前商店街 未実施 「アリストック」 会場：あらかわ遊園・アリスの広場 ・荒青連加盟団体に限らず、区内等で活動している音楽団体による音楽祭形式で実施（9団体参加） ・成人の日のつどい実行委員経験者（実行委員アドバイザー）の団体（2団体）が、初めて青年大会に参加					
必要性							
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	950	950	950	950	950	950	950	
決算額（26年度は見込み）	950	950	950	0	0	950	950	
人件費等	2,202	1,954	2,494	0	0	1,248		
減価償却費			930	0	0	507		
【事務分担当】（%）	26	24	32	0	0	15		
合計（+ +）	3,152	2,904	4,374	0	0	2,705	950	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	3,152	2,904	4,374	0	0	2,705	950	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
参加者数	1,600	1,000	1,500	0	0	700	800	
出演団体数	12	12	15	0	0	9	15	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	あらかわ青年大会補助	0	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	出演団体数	0	0	9	15	20	
	実行委員数	0	0	60	70	70	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の核となる荒川青年団体連合会の活動を活性化させる必要がある。</li> <li>・広く区民一般に楽しんでもらうため、基本的に無料としており、必要経費については全て補助金を充てているが、今後は一部自主的な運営ができるよう支援していく必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	青年団体連合会が、実行委員会の核となって青年大会を実施できるよう、協力する。	平成26年に引き続き、協力しながら、新しく実行委員となってもらえるような青年の参加を促す。
	実行委員の自主財源による事業の実施について、情報提供を行う。	平成26年に引き続き、一部自主財源で実施できるような方法を検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青年の交流の場の提供及び新しい青年育成の場、また、区民楽しめるイベントを実施する事業として、継続して実施する。

議会議決要旨	平成24年予特 平成25年予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区でも支援を。青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
--------	--------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-09	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	成人の日のつどい		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	森屋・松本	内線		3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-03	成人の日のつどい					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	29年度	根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達		
終期設定	有	無	年度	法令等	（昭和31年12月10日）		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	成人に達した門出を祝福すると共に、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。また、実行委員となった新成人には、地域への愛着を強め、地域活動への関心を深めるきっかけとなるようにする。						
対象者等	平成25年度 平成5年4月2日～平成6年4月1日生まれの方 平成26年度 平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれの方						
内容	平成26年度 平成27年1月12日（月・祝） 12:00～14:30 【平成25年度の内容】 第1部 記念式典：国歌斉唱、ひぐらし小児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い、来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介、 第2部 ・恩師からのVTR上映 ・めざせ！荒川マスター！！（荒川を知ってもらうためのクイズを会場全体で実施） 第3部 ミニパーティー、書き損じハガキ回収、「いつ するの？今でしょ！」ボード（メッセージボード設置） 会場 第1・2部：大ホール 第3部：小ホール、第1～7集会室						
経過	昭和55年度 「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を新成人を募り設置。参加者自身の手で作りに上げる方式を採用。区報で募集のほか、中学校等より推薦のあった新成人で構成。記念品の選定や、案内ハガキのデザイン、2部・3部の企画、運営を担当。 平成22年度 司会を実行委員から専門家に変更し、また入場方法についても工夫をした結果、より厳粛な式典が実施できるようになった。なお、2部・3部については、実行委員による運営を実施。 平成23年度 成人式を終えた実行委員に「アドバイザー」として次年度以降の実行委員会に参加を促した。						
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 平成25年度 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力：新成人実行委員14名・アドバイザー6名、青少年委員32名他						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		3,204	3,204	3,257	3,029	3,093	2,973
決算額（26年度は見込み）		2,357	2,318	2,711	1,620	2,364	2,374	2,856
人件費等		3,388	3,665	5,808	4,764	3,840	4,224	
減価償却費				2,527	2,489	2,259	2,400	
【事務分担量】（%）		40	45	87	80	70	71	
合計（+ +）		5,745	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	2,856
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		5,745	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	2,856
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	対象者（人）	1,820	1,758	1,813	1,811	1,687	1,735	1,794
	参加者（人）	1,018	916	960	972	860	888	1,076
	参加率（%）	55.9	52.1	53	54	51	51	60
	記念品	手回し式携帯電話充電器	セラミックボールペン	フォトフレーム	オリジナルタンブラー	シースルーアラームクロック	ステンレスマグカップ	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	46	需用費	謝礼	2,016	需用費	謝礼	2,264
食料費	ミニパーティー賄等	707	使用料等	ミニパーティー賄等	217	使用料等	ミニパーティー賄等	286
一般需用費	記念品等	1,290	役務費	記念品等	95	報償費	記念品等	144
役務費	吊看板・立看板	96	報償費	吊看板・立看板	46	役務費	吊看板・立看板	105
委託料	ビデオレター編集委託	0	委託料	DVD作成委託等	0	委託料	DVD作成委託等	57
使用料・賃借料	会場使用料・トラック借上	226		会場使用料等			会場使用料等	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	式典参加率（％）	54	51	51	60	60	参加数 / 対象者数
	実行委員数（公募数）	14(2)	18(2)	14(5)	15(8)	15(8)	
	実行委員会参加率	51	67	67	100	100	参加延べ数 / 実行委員数*回数

（問題点・課題） （指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の日のつどいへの参加率は50%程度で推移しているが、さらに多くの新成人に参加してもらえよう、周知及び内容の充実を図る必要がある。</li> <li>・成人の日のつどい実行委員の応募については、区報・HP等による公募委員が増加してきているが、学校推薦の委員が多数である。より積極的な参加意志を持つ委員に多く参加してもらうために、公募方法等の改善を図る。</li> <li>・サンパール荒川の大規模改修に伴う会場変更について、円滑に実施ができるよう早急に検討する。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 【25年度参加率(%)】千代田82、中央69、港53、新宿39、文京61、台東56、墨田59、江東69、品川55、目黒55、大田59、世田谷68、渋谷47、中野49、杉並48、豊島46、北54、板橋55、練馬67、足立60、葛飾62、江戸川59【記念品無】12区【実行委員会形式】14区

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	実施内容だけでなく、参加率を上げるためのPR方法等についても、実行委員、アドバイザー等の意見を聞きながら検討していく。	平成26年度の検討内容を踏まえ、より参加率があがるよう改善していく。
	実行委員の応募について公募等が増えるよう、アドバイザー等にも意見を聞きながら工夫すると共に、役割をより具体的にし、積極的な参加を推進する。	平成26年度の改善内容を踏まえ、より公募等が増えるよう工夫すると共に、アドバイザーが、成人の日のつどいだけでなく、広く地域活動に参加できる場を提供する。
	平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、実施方法について検討する。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	成人を祝うとともに、成人としての権利と義務、責任・自覚を促す事業として継続して実施する。

議 会 要 旨 状	H18決特 二部のパーティー内容の充実について H23予特 荒川公園など屋外での実施の可能性について
-----------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-10	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	吹奏楽コンサート		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-04	吹奏楽コンサート					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	52年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区内の小・中・高校等の吹奏楽部や、卒業後も活動を続けている青少年に、日頃の練習成果の発表の場提供するとともに、区民が身近で音楽文化に触れる機会を提供する。						
対象者等	青少年及び一般区民						
内容	平成26年度 1 主催 吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区 2 実施日 27年3月22日（日） 3 場所 サンパール荒川（大ホール） 4 参加団体 11団体（予定） 社会人団体：4団体 高等専門学校：1団体 高等学校吹奏楽部：1団体 中学校吹奏楽部：2団体 小学校金管バンド：3団体						
経過	昭和56年度（第1回）～「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度～ 平成6年度～ 平成19年度 平成22年度 教育委員会の主催で「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 「吹奏楽のつどい実行委員会」の主催となる 東日本大震災のため中止						
必要性	区内の吹奏楽団体の成果発表の機会提供及び荒川区の文化向上のために必要な事業である。						
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	468	618	618	609	598	598	610	
決算額（26年度は見込み）	450	483	16	453	447	455	610	
人件費等	1,355	896	960	932	909	832		
減価償却費			320	342	355	338		
【事務分担量】（%）	16	11	11	11	11	10		
合計（+ +）	1,805	1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	610	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	1,805	1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	610	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
出演団体数	10	10	0	10	11	11	11	
入場者数	1,000	1,000	0	945	900	830	1,000	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	ポスター	16	使用料等	会場費・トラック	378	使用料等	会場費・トラック	525
委託料	照明	60	委託料	照明	61	委託料	照明	67
使用料・賃借料	会場費・トラック	370	需用費	ポスター	16	需用費	ポスター	18

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	出演団体数	10	11	11	11	12	
標	来場者数	945	900	830	1,000	1,000	

問題点・課題 (指標分析)	・「吹奏楽のつどい」のプログラムや内容等の充実を図り、来場者が音楽文化に親しむことができるよう、より様々な年代の参加団体を増やしていくことが必要である。
	( 実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区 )
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
実行委員会による運営がより効率的に行われるよう、会場運営やPRについて助言や支援をする。	実行委員会による運営がより一層効率的に行われるよう、積極的に助言や支援をする。
参加団体が増えるよう、各学校や団体に声かけをしていくと共に、団体がより参加しやすいような実施日程・会場なども検討する。	26年度に検討した内容を踏まえて対応する。
平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、確実な準備をしておく。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の音楽活動の成果を発表する場、および区民が音楽文化に触れることのできる場として、継続して実施する。

議会議案 (要旨)	
--------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-11	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	小中学校の公開講座	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	加藤
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--						
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成	6 年度	根拠法令等	荒川区立小中学校公開講座実施要綱			
終期設定	有 無	25 年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が身近な小中学校で、教員が講師となり、多様な学習機会を提供する。						
対象者等	区内在住・在勤・在学の18歳以上の方						
内容	<p>概要 小中学校の教員等が講師となり、区民を対象とした講座を開催する。</p> <p>実施校の募集 毎年4月</p> <p>実施日時・期間 1回2時間で計5回とし、実施日時は学校による（ただし、夜間や学校休業日等の通常の勤務時間外）</p> <p>実施内容（平成25年度実績） 3講座実施 IT系3校【パソコン教室2校（一日小・三中）】 美術系1校【木版画1校（一中）】 中止となった講座...1講座【パソコン教室（尾久小）】</p>						
経過	<p>13年度 IT（別事業として実施）講習のために、パソコン関係を除く7講座に縮小</p> <p>14年度 IT講習終了に伴い、講座数を10講座に戻す。チャレンジサタデー教室（公開講座）を含む</p> <p>17年度 12講座を募集し、11講座開催 18～21年度 12講座を募集し、10講座開催</p> <p>22年度 生涯学習推進計画で公開講座におけるIT講座の実施があげられたため、パソコン教室を4講座に増やし、計13講座開催</p> <p>23年度 7校8講座実施</p> <p>24年度 7校9講座実施</p> <p>25年度 総務企画課からの『改善対象事務事業シート』に基づき、事業の必要性を再検討した結果、予算措置上、IT 5 講座 + 予備 1 講座とした。4講座を募集し、3講座開催（定員割れにより1講座中止）</p> <p>26年度 区民のニーズが多様化し、参加者数が減少したため、平成25年度で事業終了</p>						
必要性	参加者減により中止となる講座が増えたことや、IT 講座については生涯学習センター等で実施しているため、平成25年度で事業終了した。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各小中学校に開催希望を聞いて、実施を決定。講師謝礼及びチラシ等に要する経費については生涯学習課で負担。消耗品については受益者負担。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	900	900	974	1,010	1,010	509		
決算額（26年度は見込み）	752	720	974	560	646	230		
人件費等	932	896	1,395	1,355	909	166		
減価償却費			465	498	355	68		
【事務分担量】（%）	11	11	16	16	11	2		
合計（+ +）	1,684	1,616	2,834	2,413	1,910	464	0	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	1,684	1,616	2,834	2,413	1,910	464	0	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
小学校	6校	5校	7校	3校	4校	2校		
中学校	3校	4校	5校	4校	3校	1校		
講座数	10講座	10講座	13講座	8講座	9講座	3講座		
受講者数	194人	167人	178人	106人	134人	131人		

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼・助手謝礼	646	報償費	講師謝礼・助手謝礼	230			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	講座数	8	9	3			
	実施校	7	7	3			
	申込み率(%)	91	78	69			申込者数 / 募集定員

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師となる教諭の人事異動等により講座が継続できなくなるなど、安定した運営が難しい。</li> <li>他の生涯学習講座との競合がある。</li> <li>参加者数の実情や区民の需要等を見極めた結果、平成25年度で事業終了した。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
応募が少なく取りやめとなる講座が増加したことや、他施設で類似講座が実施されていることなどを考慮し、平成25年度をもって事業を終了する。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
休止・完了	休止・完了	平成25年度で事業終了。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-12	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川区文化祭	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	加藤
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-01	文化祭					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	27年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が日頃研鑽を重ねている様々な文化活動の成果を、広く区民に発表する場を提供すると共に、更なる活動意欲の向上、文化の向上を図る。						
対象者等	各団体会員と区民一般						
内容	各団体（平成26年度は21団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行っている。 日本舞踊大会（荒川区日本舞踊連盟） 区民音楽会（荒川区音楽連盟） 写真展（全荒川写真連盟） 民踊大会（荒川区民踊連盟） 謡曲大会<観世流・宝生流>（荒川区謡曲連盟） 華道展・茶席（荒川区華道茶道文化会） 俳句大会・展示会（荒川区俳句連盟） 囲碁大会（荒川区囲碁連盟） 民謡大会（荒川区民謡協会） 菊花展（荒川菊花会） 詩吟と剣舞の大会（荒川区吟剣詩舞道連盟） 盆栽展（荒川盆栽山野草会） 盤景展（荒川盤景会） ソシアルダンス大会（荒川区ソシアルダンス連盟） 書道展（荒川区書道連盟） 美術展（荒川区美術連盟） 大太鼓盆踊り大会（荒川区大太鼓連盟） 邦楽大会（荒川区邦楽連盟） バレエコンサート（荒川区洋舞連盟） 歌謡大会（荒川区歌謡協会） さつき紅葉実物展（荒川区臈月会）						
経過	平成元年度 21団体参加 平成13年度 22団体参加 荒川区歌謡協会加盟 平成15年度 23団体参加 荒川区臈月会加盟 平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月） 平成23年度 荒川区文化祭60周年記念行事（式典・子ども向け事業）実施 平成26年度 21団体参加予定 荒川史談会退会（26年5月）						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することにより、活動をさらに充実させる機会となっているため、必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 主催：荒川区・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	6,320	6,414	6,536	7,129	6,294	6,029	6,146	
決算額（26年度は見込み）	5,732	5,753	5,665	6,514	5,398	5,446	6,146	
人件費等	7,369	6,108	6,645	6,455	6,444	7,319		
減価償却費			2,411	2,581	2,840	2,974		
【事務分担量】（%）	87	75	83	83	88	88		
合計（+ +）	13,101	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	6,146	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	13,101	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	6,146	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
出演・参加者数	3,185	2,544	2,246	2,621	2,460	2,657	3,500	
出品者数	991	823	956	2,105	1,684	1,550	2,500	
参観者数	16,776	17,319	16,484	16,307	13,987	15,589	19,000	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	223	使用料等	会場使用料等	3,345	使用料等	会場使用料等	3,773
一般需用費	プログラム等	634	委託料	会場設営委託	947	委託料	会場設営委託	999
役務費	筆耕料・保険料等	369	需用費	プログラム等	546	需用費	プログラム等	675
委託費	会場設営委託	835	役務費	筆耕料・保険料等	355	役務費	筆耕料・保険料等	423
使用料・賃借料	会場使用料等	3,336	報償費	講師謝礼	253	報償費	講師謝礼	276
負担金補助・交付金								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	参加者・観覧者数	21,033	18,131	15,589	25,000	25,000	
	大会&展示会数	25	25	25	25	25	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者や観覧者が固定化する傾向にあるため、広く区民に周知する必要がある。</li> <li>・団体構成員の高齢化が進んでいるため、新しい人材を積極的に取り込み、各団体の活性化を図る必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	参加者・観覧者を増やすため、チラシの配布場所やホームページの活用等周知方法を工夫する。	26年度の改善内容を引き続き実施し、文化団体の活動に関心を持つ人を増やし、ひいては文化祭への参加者・観覧者数を増やしていく。
	伝統文化子ども教室や文化総合講座に参加している子どもの作品の展示と併せて、文化祭期間中に子供や親子向けの講座等の実施を検討する。	26年度の改善内容を踏まえ、文化活動に関心を持つ子ども・保護者を増やすことにより、区民の文化向上につなげていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の文化向上のために、寄与している。

況議 （要 質 問 状）	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-13	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化団体連盟補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-02	文化団体連盟補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	39年度	根拠	荒川区補助金交付規則		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区文化団体補助金交付要綱		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民の文化向上のために実施する事業を奨励し、文化活動の中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）に対し支援する。						
対象者等	荒川区文化団体連盟 加盟団体（21団体）						
内容	<p>目的を達成するため、次の事業に対し補助金を交付する。</p> <p>（1）加盟各文化団体相互の親睦と情報の交換 （2）文化祭等、行事への参加または協力 （3）その他、目的達成のために必要な事業</p> <p>【加盟団体】21団体                  荒川区日本舞踊連盟 荒川区音楽連盟 全荒川写真連盟 荒川区民踊連盟 荒川区謡曲連盟                  荒川区華道茶道文化会 荒川区俳句連盟 荒川区囲碁連盟 荒川区民謡協会 荒川菊花会                  荒川区吟剣詩舞道連盟 荒川盆栽山野草会 荒川盤景会 荒川区ソーシャルダンス連盟 荒川区歌謡協会                  荒川区皐月会</p>						
経過	平成元年度 21団体加盟 平成13年度 22団体加盟 荒川区歌謡協会 加盟 平成15年度 23団体加盟 荒川区皐月会 加盟 平成17年度 22団体加盟 荒川区美術刀剣連盟 脱退 平成26年度 21団体加盟 荒川史談会 脱退						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動を支援することにより、文化活動をさらに充実させるため必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	
決算額（26年度は見込み）	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	
人件費等	769	932	960	932	909	832		
減価償却費			320	342	355	338		
【事務分担量】（%）	9	11	11	11	11	10		
合計（+ +）	2,749	2,912	3,260	3,254	3,244	3,150	1,980	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	2,749	2,912	3,260	3,254	3,244	3,150	1,980	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
団体数	22	22	22	22	22	22	21	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,980

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	連盟加盟団体数	22	22	22	21	22	

問題点・課題 (指標分析)	団体役員及び所属会員の高齢化のため、新会員の加入促進を積極的に図る必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化財団等への補助及び事業補助を含む
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	各文化団体の実施事業について区民に周知し、文化活動の魅力を伝えられるよう協力する。	引き続き、26年度の改善内容踏まえ、会員の加入促進につながるよう協力し、団体の活性化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	文化団体を支援することにより、区民の文化の向上に寄与できている。

議会 (要旨) 質問状	
-------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-14	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化講座補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-03	文化講座					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	元年度	根拠	荒川区補助金交付規則、荒川区町屋文化センター文化講座補助金交付要綱			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画		
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が安価で参加できる講座を安定して実施するため、荒川区文化団体連盟主催する文化講座に対し支援する。						
対象者等	文化団体連盟						
内容	<p>【内容】文化団体連盟の自主事業である文化総合講座に対して補助する。</p> <p>【会場】町屋文化センター</p> <p>【実施方法】4月期、7月期、10月期、1月期の3ヵ月を単位として受講生を募集する。</p> <p>【補助対象経費（平成25年度実績）】 会場使用料、チラシ印刷、チラシ折込、受講証印刷、文化総合講座学習成果発表会、ポスター印刷</p> <p>【主な講座】 ジュニアアート25/160 囲碁135/160 土曜歌謡125/120 童謡を歌う会229/260 水彩画115/128 実用文字B 55/160</p> <p style="text-align: right;">〔受講者（人）/定員（人）〕</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年1月～3月まで、町屋文化センター開設に合わせて開講。当初は、講師が教室運営を行った。</li> <li>・平成元年4月～ 運営委員会を組織し、教室運営を行った。</li> <li>・平成13年度 会場使用料を全額補助から半額補助に変更した。それに伴い、受講料を100円値上げした。</li> <li>・平成14年度 ジュニア向け講座として7月より囲碁、10月より書道・美術を開講</li> <li>・平成19年度 区制75周年に伴い、子ども・高齢者対象の事業やボランティア活動を実施している団体への支援を行った。</li> <li>・平成22年度 震災により学習発表会を中止</li> </ul>						
必要性	連盟の主催する各講座は、地域の人材を活用し、区民に様々な生涯学習の機会を与えるとともに、日本の伝統文化の継承を担っており、その必要性は年々高まってきている。						
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>文化団体連盟による運営委員会方式 運営委員長：松田全代（荒川区邦楽連盟）（H24.5就任） 運営委員数：4名（委員長1名、会計2名、書記1名）</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	3,153	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	
決算額（26年度は見込み）	3,153	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	
人件費等	932	896	969	932	909	832		
減価償却費			320	342	355	338		
【事務分担量】（%）	11	11	11	11	11	10		
合計（+ +）	4,085	4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	3,353	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,085	4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	3,353	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
講座数	28	28	29	29	29	29	29	
受講者数	2,103	2,093	2,154	1,927	1,927	1,945	2,120	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	受講率%	59	59	59	70	70	受講生 / 定員
	ジュニア向け講座受講率%	49	36	36.5	50	70	受講生 / 定員

（問題点・課題分析）	定員に達していない講座があり、日本の伝統的文化の継承の意義とコスト、両面から実施内容を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
参加者数の増と伝統文化の継承のため、ジュニア講座を強化し、子どもの参加者を増やす。	26年度の改善内容を踏まえ、子どもの参加者を増やすとともに伝統文化の継承を図っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	多様な区民の文化向上のための講座を実施している。

議（要旨）	
-------	--



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	補助団体数	5	5	5	5	5	

問題点・課題 (指標分析)	会員の高齢化が進んでおり、若年層の加入促進が必要である。
	（実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 千代田区、港区が団体補助または事業補助を実施。
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	家庭教育講座への協力等において、子育て世代等の若年層との交流を深める機会をつくる。	平成26年度の取り組みを踏まえ、活動に対し指導助言を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域活動や生涯学習の発展に寄与している。

議会 (要旨) 状況	
------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-16	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	青年団体連合会補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	宮前	内線		3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-11-02	青年団体連合会補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	48 年度	根拠	荒川区補助金交付金規則			
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	青年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成のために、自主的な団体活動を支援する。						
対象者等	荒川区青年団体連合会						
内容	青年団体の連合体である荒川区青年団体連合会の活動に対し、補助する。 青年団体連合会加盟団体 5団体 ・ふるさと荒川ふれあい広場 ・ユースペンタクロースクラブ ・荒川区商連青年部 ・M u - k y o c a ・D r e a m s あらかわバンド会 活動状況 ・23年度 活動なし ・24年度 総会、スポーツ大会（フットサル大会）、忘年スポーツ大会（ボウリング）等 ・25年度 総会、スポーツ大会（フットサル大会）、あらかわ青年大会等						
経過	昭和43年 荒川区青年団体連合会結成（40団体・400人参加） 都内で8番目の青年団体連合体 平成10年 結成30周年記念事業として「フレンドシップ神津島」を実施 平成20年 結成40周年を迎えた						
必要性	荒川区青年団体連合会は、加盟団体数は減少しているものの、都内唯一の青年団体連合会である。今後、自主財源を安定して確保できるようになるまで、青年団体活動を活性化していくためにも、補助は必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	257	257	257	257	257	257	257	
決算額（26年度は見込み）	257	257	257	0	181	257	257	
人件費等	932	895	960	169	909	3,327		
減価償却費			320	62	355	1,352		
【事務分担当】（%）	11	11	11	2	11	40		
合計（+ +）	1,189	1,152	1,537	231	1,445	4,936	257	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	1,189	1,152	1,537	231	1,445	4,936	257	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	加盟団体数	8	10	10	10	5	5	5

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	青年団体連合会補助金	181	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	加盟団体数	10	5	5	5	10	

問題点・課題 (指標分析)	・余暇活動の多様化などにより、青年が団体で活動することが少なくなり、荒川区青年団体連合会に加盟する団体が減少しているため、活発な活動がされていない。
	他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	組織化していない青年層(成人の日のつどい実行委員・大学生等)や区内で活動する青年グループに周知し、各種イベントを通じて団体活動の魅力を感じてもらい、団体の加入促進を図る。	平成26年度に引き続き、団体活動をしていない青年層を発掘し、加盟団体を増やす。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青年団体連合会を支援することにより、青年による地域活動の発展に寄与することができる。

議会 (要旨) 状況	H24 予特 H25 予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区も支援を。青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
------------------	------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-17	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	少年団体指導者連絡会補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	坂井	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-11-03	少年団体指導者連絡会補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	48年度	根拠	荒川区補助金等交付規則		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱		
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	少年団体指導者連絡会へ支援を行うことにより、少年を対象にした事業の安定的な実施と、少年団体の健全な育成を図る						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会						
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助団体 荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」）</li> <li>・加盟団体 12団体 <ul style="list-style-type: none"> <li>南千住一丁目東町子ども会      南千協和子ども会      荒川交通少年団</li> <li>南千住六丁目日本町会青少年部      銀成町会青少年部      西尾久中町会青少年部</li> <li>レインボー子ども会      ウェスタンエイト子ども会      尾久地区青少年団体連合会</li> <li>ユースボン・タクローズクラブ・タクローズ子ども会      尾久母の会子ども会</li> <li>尾久交通少年団</li> </ul> </li> <li>・特別団体会員 4団体      リバーパーク汐入町会      天王太鼓つくも会      南千住協和会      十久日会</li> <li>・個人会員 124名</li> <li>・シニアリーダー 12名</li> </ul>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和40年 荒川区少年団体指導者連絡会設立</li> <li>・平成17年2月 荒川区少年団体指導者連絡会40周年記念式典・祝賀会開催</li> <li>・平成22年3月 荒川区少年団体指導者連絡会45周年記念式典・祝賀会開催</li> <li>・平成26年 荒川区少年団体指導者連絡会50周年記念事業実施予定（大島キャンプ、祝賀会）</li> </ul>						
必要性	異年齢集団の仲間や友達と過ごすことが少なく、体験の不足などにより集団行動が苦手な子どもが増えている中、子どもが様々な体験をし、協調性を養う機会を増やすために、子ども会組織の健全な育成が必要である。						
実施方法	（1直営）      （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	300	300	300	300	300	300	300	
決算額（26年度は見込み）	300	300	300	300	300	300	300	
人件費等	508	895	960	932	909	850		
減価償却費			320	342	355	676		
【事務分担量】（%）	6	11	11	11	11	20		
合計（+ +）	808	1,195	1,580	1,574	1,564	1,826	300	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	808	1,195	1,580	1,574	1,564	1,826	300	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	加盟団体	21	21	21	20	20	20	16
	個人会員	156	156	160	131	126	125	124

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	加盟団体数（団体）	20	20	20	16	22	
	個人会員数（名）	131	126	125	124	150	
	シニアリーダー数（名）	15	22	19	12	30	

（問題点・課題分析）	補助団体である荒少連は、子どもの体験活動等に広い知識と実績を持つ育成者の団体であるが、近年、地域で子どもを育てるという意識が薄れている現状から、加盟団体及び個人会員数が年々減少している。子ども達の安全な体験活動の実施のためには、育成者である会員数の充実が必要である。
	（実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区） 他区の状況 東京都子ども会連合会加盟団体

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
子ども会大会や加盟団体交流会等の行事の中で、加盟団体同士の交流を図り、子ども会の数の維持や個々の子ども会活動の充実につながるよう支援する。	26年度の改善内容を継続して推進し、子ども会数の維持・拡充に努めていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	子ども体験活動を支えている団体へ支援することにより、青少年の健全育成に寄与することができている。

議（要旨）	況（質問状）
-------	--------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-18	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	人権教育推進費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-12-01	人権教育推進費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	年度	根拠	人権教育及び人権啓発の推進に関する法		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区人権推進指針		
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が人権問題についての学習機会を得ることにより、基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解できるようにする。						
対象者等	区民一般						
内容	<p>人権についての講座を実施している。平成23年度からは、「子どもの人権」をテーマに、「みんなで人権を考える講座『CAPワークショップ』」を各地区1回、4年で全地区で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度 南千住地区</li> <li>・平成23年度（日暮里地区）</li> <li>・平成24年度（尾久地区）</li> <li>・平成25年度（峡田地区）</li> </ul> <p>【CAP】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 子ども向けワークショップ「子ども自身が様々な暴力から子どもを守る方法」 大人向けワークショップ「家庭で、学校で、地域全体で子どもが安心して暮らしていくために、困っている子どもがいる時に大人ができること」</li> <li>・講師：NPO法人CAPユニット</li> </ul>						
経過	平成9年度まで 平成10年度 平成13年度 平成14年度	部落解放同盟荒川支部（以下「支部」と略す）に対して補助金を交付 一部の事業について支部と共催。 サマーキャンプと女性交流研修を廃止。 デイキャンプ、地域交流教室（子ども会）、青年スポーツ交流会、地域交流教室を一般施策化					
必要性	すべての区民の人権が尊重される社会の実現のために必要である。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	104	104	104	98	98	98	98	
決算額（26年度は見込み）	9	43	70	68	74	70	98	
人件費等	423	244	923	1,204	1,180	1,447		
減価償却費			465	654	678	1,690		
【事務分担当】（%）	5	10	16	21	21	50		
合計（+ +）	432	287	1,458	1,926	1,932	3,207	98	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	432	287	1,458	1,926	1,932	3,207	98	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
講座（数）	1	2	1	1	1	1	1	
参加者数	88	60	45	60	44	50	90	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼	67	報償費	講師・託児謝礼	70	報償費	講師・託児謝礼	90
一般需用費	講座用消耗品費	7	需用費	講座用消耗品費	0	需用費	講座用消耗品費	8

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	講座の参加者数	51	44	50	90	90	

（問題点・課題分析）	生活の中で身近な、高齢者・外国人・障がい・性・ワークライフバランス・児童虐待・いじめ・命等を広く人権問題として捉えるとともに、社会情勢等を踏まえ、講座の内容や効果を検討する必要がある
	（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区） 東京都教育庁地域教育支援部の人権教育事業実施状況調査（H22.3）より。 教育委員会以外の調査は反映されていない

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
C A P 講座の区内全地区で実施終了に伴い、新たな講座を企画・実施する。	平成26年度に引き続き、新たな講座を企画・実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の人権教育を推進するため、継続して実施する。

況議 （要 質 問 状）	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-19	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	社会教育サポーター		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	萩原	内線		3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-13-01	社会教育サポーター					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠	荒川区社会教育サポーター設置要綱（平成26年度制定）		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	生涯学習に関する知識、技能、経験を持つ区民が、自らの学びを活かし社会教育関係団体、地域団体などが行う学習活動等を支援することで、青少年の健全育成や様々な区民の生涯学習に対するニーズに応える。						
対象者等	地域団体（町会・女性・高齢者・青少年対策地区委員等） 社会教育団体（青少年委員・PTA・文化・伝統工芸技術・少年・青年等） 前記団体・教職員等のOB 知識・技術・経験をもつ地域活動に関心をもつ18歳以上の区民。						
内容	<p>生涯学習に関する知識、技能、経験をもち青少年や地域のために、自らの学びを活かし活動することを希望する区民（18歳以上）を、社会教育サポーターとして登録。</p> <p>派遣団体の依頼により、生涯学習課がコーディネート。</p> <p>社会教育サポーターは、生涯学習を進める団体の求めに応じ、講師、活動支援、託児等の活動を行う。毎年度、登録継続の有無を確認。（平成22年度より）、継続したサポーターについてはボランティア保険に加入する。</p> <p>全体会の内容 講演と体験発表・講師：中村好江氏「地域における生涯学習支援活動の現状と課題」講演と体験発表・講師：松田道雄氏「これからの日本の地域活動と、そこで活躍できる社会教育サポーターの活動内容」講演とグループワーク・地域活動見本市。講師：笹井宏益「笑顔あふれる地域活動のススメ」講話とグループワーク、地域活動団体の展示・発表。：ワクワク・フェスタin西尾久ふれあい館（サポーターが活動を実践後、活動を体験した参加者とサポーターの意見交換。）等</p>						
経過	<p>平成17年度、区内の青少年団体等に、活動の指導・助言を行うことにより、青少年の健全育成と活動の活性化を図ることを目的に、教育委員会事務局社会教育課の社会教育事業として事業開始。</p> <p>平成19年度から、社会教育サポーター通信の発行。</p> <p>平成21年度、要綱改正。青少年団体以外の派遣依頼が増えたため対象を生涯学習全般に広大。また子育てサポーター講習修了生の活動の場と共に、子育て世代の生涯学習機会の拡充を図るため、活動分野に「託児」を加えた。</p> <p>平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課の生涯学習事業として要綱策定し事業実施。</p>						
必要性	学習成果を地域に生かす取り組みとして、「荒川区生涯学習推進計画」の重点目標「地域活動を担うネットワークづくり」に欠かせないものであり、多様化する区民の生涯学習に関するニーズに応えるためにも、必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	200	210	114	109	143	104	88	
決算額（26年度は見込み）	115	57	60	43	49	23	88	
人件費等	853	1,141	1,273	1,378	1,444	1,161		
減価償却費			1,017	1,244	1,323	913		
【事務分担量】（%）	30	42	35	40	41	27		
合計（+ +）	968	1,198	2,350	2,665	2,816	2,097	88	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	968	1,198	2,350	2,665	2,816	2,097	88	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
社会教育サポーター登録数	180	213	120	133	125	125	150	
社会教育サポーター活用数	70	44	64	66	42	83	90	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	サポーター講習会	23	役務費		17	役務費		45
食糧費	全体会、委員会	6	需用費		6	報償費		26
一般需用費	消耗品	0	報償費		0	需用費		17
役務費	傷害保険料	16						
使用料・賃借料	全体会会場使用料	4						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	登録者数	133	125	125	150	200	登録者数
	活用数	66	42	83	90	100	サポーター活動数

問題点・課題 (指標分析)	サポーター制度についての周知が十分でない。 登録者の具体的な活動内容（技術のレベル等）が把握できない場合、コーディネートに支障がある。 分野によっては、単発の活動が主となるため継続性に欠ける。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 人材バンク、講師派遣制度等類似制度はあり
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
H Pでの周知のほか、福祉まつり等他部署（団体）が実施するのイベントにPRブースを開設し、制度や実際の活動を周知する等新たなPRを方法を検討し実施する。	26年度の実施状況を検証し、効果的にサポーター制度の周知を進めていく。
「活動見本市」や「体験講座」などを、コミュニティカレッジ学園祭で実施し、各サポーターの実際の活動を具体的に把握するとともに、団体へ周知し、派遣のコーディネートにつなげていく。	26年度の実施状況を検証し、具体的な活動内容を紹介する場を拡大していく。
継続のアンケート調査の際に活動状況等を確認し、サポーター制度をきっかけに継続的な活動となっているもの等を把握することで、事業の実施効果を把握する。	26年度の対応を踏まえ、成果の把握を継続する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域の人財を活用することで、青少年の健全育成や生涯教育の振興につなげることができている。

議会議事録 (要旨)	H19 区民人材の活用方策について
---------------	-------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-20	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	宮前	内線		3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費				
事務事業の種類	新規事業	（ 26年度 25年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和 平成	58 年度	根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	[ ロッジ ] 区民が、豊かな自然環境の中で荒川区ではできない体験をしたり、交流を深めたりすることにより、心身の健康増進を図る。 [ 自然の家 ] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。						
対象者等	1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動） 2 区立小・中学校（移動教室・夏期学園等の教育活動） 3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）						
内容	【開設】昭和58年4月15日【所在地】山梨県北杜市高根町清里3545 - 5 【定員】ロッジ35名、少年自然の家200名 【宿泊室】ロッジ 12畳5室、9畳(ﾊﾞｯﾄ)1室、研修室洋間55㎡(34畳)、談話室、食堂、浴室 少年自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室 【土地面積】32,322㎡ 【構造】鉄筋コンクリート造2階建 【建物面積】延3,999.96㎡(ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡)【面積比】ロッジ：自然の家＝2：8 【休業日】 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直前の金曜日）まで。 11月5日(当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直後の月曜日)から12月31日まで。 （平成26年度の開設は、平成26年4月26日から平成26年11月3日まで）						
経過	昭和58～13年度 高根町に管理委託（10年間×2回） 平成14年度～ (株)ニッコトラストに業務委託 平成18～20年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（公募） 平成21～23年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（更新） 平成24～26年度 指定管理者ニッコトラスト・尾瀬林業プロジェクト（公募） *平成25年7月1日 ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクトに変更						
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きい。						
実施方法	（ 3委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 指定管理者：ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		50,731	77,816	75,546	64,335	60,358	56,982
決算額（26年度は見込み）		50,304	77,499	66,290	62,197	58,421	56,891	55,635
人件費等		2,541	2,199	2,616	2,964	3,717	3,743	
減価償却費				872	1,089	1,452	1,521	
【事務分担量】（%）		30	27	30	35	45	45	
合計（ + + ）		52,845	79,698	69,778	66,250	63,590	62,155	55,635
特定財源の推移	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	0	16,000	11,975	10,000	7,000		
	一般財源	52,845	63,698	57,803	56,250	56,590	62,155	55,635
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	一般利用者（人）	2,260	2,044	2,065	1,857	1,813	1,467	2,000
	学校利用者（人）	7,704	7,674	8,471	7,664	8,462	8,318	8,500

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
職員旅費	管理運営指導等旅費	336	委託料	指定管理料	52,367	委託料	指定管理料	52,738
委託料	指定管理料	49,842	使用料等	土地賃借料	2,549	使用料等	土地賃借料	2,549
使用料等	土地賃借料	2,549	工事請負費	冷暖房機設置工事	1,788	備品購入費	プロジェクター等購入	193
工事請負費	高圧ケーブル改修工事	5,696	旅費	管理運営指導等旅費	187	旅費	管理運営指導等旅費	155

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	利用人数（人）	9,521	10,275	9,785	10,500	11,000	延べ利用者数
	宿泊部屋稼働率（％）	36.3	31	36	35	40	利用部屋数 / 稼働部屋数
	利用者1人当たりの維持管理コスト（円）	5,578	5,131	7,754.5	5,244	5,000	決算額 / 利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）

（問題点・課題分析）	<p>開設から31年が経過しており、施設、設備を含めた計画的修繕が必要である。 少年自然の家は学校の利用が中心となり、安定的な運営を図れるが、ロッジの利用率の向上が課題である。 重油・食材の高騰によって管理・運営経費が増大する等、物価の影響を受けやすい。</p>
	<p>（実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区） 社会教育施設のうち宿泊施設を有する区</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
不具合の生じている施設・設備については、計画的に修繕していく。	26年度の対応を踏まえて、計画的な修繕を行う。
区内の団体に出向いて利用をPRしたり、指定管理者の自主事業の内容を精査する等により利用の増加を図る。	26年度の対応を踏まえて、PR方法や事業内容の改善を図る。
利用状況に応じた節電対策の実施等、光熱水費等の経費削減に努める。	26年度の対応を踏まえて、経費削減に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の健康増進の場、児童生徒の体験活動の場を提供するため、必要である。

議会議事（要旨）	通年開設について
----------	----------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-21	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	町屋文化センター管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	坂野	内線	3351	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	町屋文化センター管理運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠法令等	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図る。						
対象者等	荒川区内在住・在勤・在学者						
内容	<p>【開設】 昭和63年11月1日</p> <p>【所在地】 荒川区町屋7-20-1</p> <p>【土地面積】 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部</p> <p>【延床面積】 2,400㎡</p> <p>【構造】 鉄筋コンクリート造3階建</p> <p>【施設面積】 多目的ホール188.80㎡(椅子席154名収容)、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡</p> <p>第1会議室64.08㎡(36名収容)、第2会議室65.61㎡(33名収容)</p> <p>第3会議室68.57㎡(45名収容)、第4会議室 74.47㎡(45名収容)</p> <p>【利用時間】 午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】 カルチャー講座、自主事業（一日文化体験）等</p>						
経過	昭和63年11月 施設管理・運営業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託 平成18～20年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者として管理運営（公募） 平成21～23年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者（更新） 平成24～26年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命） *東日本大震災の影響による電力不足対策として平成23年3月12日～5月15日の間、夜間利用を休止した。						
必要性	カルチャー講座や文化総合講座の実施、施設の貸出し等、区民の生涯学習のニーズに合った施設であるため必要性は高い。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者：公益財団法人荒川区芸術文化振興財団						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		54,489	37,986	35,933	68,465	60,453	38,075
決算額（26年度は見込み）		52,104	36,695	35,933	38,235	50,448	38,075	38,601
人件費等		2,710	1,628	2,180	2,117	2,478	2,911	
減価償却費				726	778	968	1,183	
【事務分担量】（%）				25	25	30	35	
合計（+ +）		54,814	38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	38,601
実績の推移	特定財源							
	一般財源							
		54,814	38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	38,601
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	多目的ホール（利用件数）	1,143	1,161	1,125	1,052	1,073	1,098	1,140
	音楽練習室（利用件数）	1,139	1,160	1,187	1,109	1,188	1,114	1,140
	第1～4会議室（利用件数）	3,670	3,744	3,536	3,436	3,580	3,736	3,960
	ふれあい広場（利用件数）	340	376	326	326	339	336	400

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	23,007	委託料	指定管理料	23,007	委託料	指定管理料	23,342
負担金補助・交付金	管理組合管理費・特別修繕費	12,504	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068
工事請負費	1階トイレ改修	14,937				備品購入費	展示パネル購入	191

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	施設稼働率（％）	68	69	70	75	80	利用件数/利用可能数
	利用者数（人）	171,441	181,906	188,547	190,000	200,000	延利用者数
	カルチャー講座受講者数（人）	5,289	5,136	5,070	5,300	5,500	延受講者数

（問題点・課題分析）	開設から26年を超過し、施設の老朽化や設備・備品の劣化・不具合が生じているため、随時、改修や買い替えを行ってきた。今後も修繕等についての優先順位を精査し、計画的に行う必要がある。利便性も良く、稼働率も安定している施設であるが、より快適に利用できるよう、利用者の声を踏まえてサービスの向上を図る。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
施設利用に支障のないよう、必要な修繕を計画的に実施する。	不具合が生じている施設・設備について、計画的に修繕していく。
カルチャー講座やなないろひろば等の自主事業に、利用者の意見を反映し、事業の充実を図る。	26年度の対応を踏まえ、アンケート等により利用者のニーズを把握し、更なる発展を促す。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の学びの場を提供する生涯学習施設として運営するために必要である。

（議会要旨）	町屋文化センターの附帯設備について
--------	-------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-22	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	高橋	内線	3351		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-01-01	生涯学習センター管理運営費				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	9 年度	根拠	荒川区立生涯学習センター条例、同施行規則			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画		
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習意欲に応える機会をつくるとともに、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。						
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。						
内容	<p>【開設】平成9年7月1日</p> <p>【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設)</p> <p>【土地面積】6,579.78㎡</p> <p>【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分)</p> <p>【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡)</p> <p>【利用時間】午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等</p>						
経過	<p>平成 9～15年度 直営（一部業務委託）</p> <p>平成16～17年度 施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託</p> <p>平成18～23年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回）</p> <p>平成24～26年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募）</p> <p>* 東日本大震災の影響による電力不足対策として、平成23年3月12日～5月15日の間、全館夜間利用の休止（全館）、体育館等は9月10日まで夜間利用の一部休止を行った。</p>						
必要性	「区民カレッジ」について定員を超える応募があり、区民の生涯学習に対する意欲が感じられる。生涯学習推進計画に基づき、生涯学習センターの各事業を充実し、生涯学習の一層の普及・啓発を行っていく必要性は高い。						
実施方法	( 3委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ) 指定管理者：株式会社読売・日本テレビ文化センター						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
予算額		80,974	83,010	88,896	76,008	68,103	67,738	67,251
決算額（26年度は見込み）		79,784	74,414	81,613	70,890	65,642	66,602	67,251
人件費等		3,754	3,868	4,465	4,765	5,079	4,842	
減価償却費				2,179	2,488	2,743	2,805	
【事務分担量】（%）		55	65	75	80	85	83	
合計（+ +）		83,538	78,282	88,257	78,143	73,464	74,249	67,251
特定財源	国	0	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0	0
	その他	10,090	15,204	20,204	5,225	243	240	423
	一般財源	73,448	63,078	68,053	72,918	73,221	74,009	66,828
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	施設利用件数（多目的広場、PC室を除く）	6,676	6,962	6,967	6,845	7,073	7,278	7,300
	区民カレッジ(講演・講座数、回数)	11、47	10、51	11、50	9、57	13、67	12、57	10、54
	IT講習会(講座数)	54	54	51	41	51	50	51
	IT自習室利用数(人)	929	750	1073	978	1609	1103	1150

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	53,585	委託料	指定管理料	54,478	委託料	指定管理料	55,514
使用料等	公有地賃借料	11,550	使用料等	公有地賃借料	11,550	使用料等	公有地賃借料	11,597
備品購入費	物置等	389	備品購入費	会議用テーブル等	526	備品購入費	ワイヤレスアンブ	92
役務費	物置設置	70	報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48
報償費	近隣協力員謝礼	48						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	施設稼働率(%)	62	62	64	62	65	利用件数 / 利用可能数 (多目的広場、PC室を除く)
	利用者数(人)	139,236	169,333	161,052	170,000	170,000	延べ利用者数 (多目的広場、PC室を除く)
	区民カレッジ受講者数(人)	3,061	3,548	3,580	3,600	3,600	延べ受講者数

（問題点・課題分析）	施設稼働率の向上のために、区民ニーズの把握に努め、よりよい接遇やサービスについて検討する必要がある。 区民カレッジ等の無断欠席や中途不参加者の減少を防止するために、募集方法の工夫や適正な受益者負担について、検討する必要がある。 IT講習会・IT自習室については、レベルや講座内容等について、より区民ニーズを反映させることが必要である。
	（実施 21 区 未実施 1 区 不明 0 区） 生涯学習センター、社会教育館、青少年センター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
利用者アンケートを行ったり、施設内に常時意見箱を置くことで、利用者のニーズを細かく把握する。	利用者アンケート結果等を区民サービスの改善や施設の管理運営に反映する。
申込方法や受益者負担について検討し、受講者が学習を継続する意欲を高める。	26年度の検討を踏まえ、講座の運営方法を改善する。
利用者アンケート結果等を踏まえ、多様な分野の講座を幅広く企画する。	受講者の多様なニーズに応える講座を企画する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	生涯学習の場を提供する生涯学習施設として運営するため必要である。

（議会要旨）	・子ども達の外遊びの場としての多目的広場の活用について ・多目的広場の利用対象の拡大について
--------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-23	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川コミュニティカレッジ	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	内田
				内線	1829		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-14-01	荒川コミュニティカレッジ管理運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	22年度	根拠法令等	荒川コミュニティカレッジ実施要綱、荒川区生涯学習推進計画		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が地域への関心を深めるとともに、地域活動の担い手となるために学ぶ機会を提供することにより、区民が主体的に地域活動に取り組めるよう支援する。						
対象者等	荒川区在住・在学・在勤の18歳以上の方						
内容	<p>【会場】サンパール荒川6階コミュニティカレッジ研修室ほか 【履修期間】2年間</p> <p>(1) 必修科目 1年次は、地域活動に必要な知識やコミュニケーション力等を習得する。2年次は、体験学習の実施、グループワークでの研究、学習成果の発表等により、修了後の主体的な地域活動につなげる。 &lt;昼コース(募集人員)&gt; 1年次 あらかわ学コース(30名) 2年次 まちづくり学科 &lt;夜コース(募集人員)&gt; 1年次 クリエイティブコース(30名) 2年次 クリエイティブ学科</p> <p>(2) 選択科目 ・公開講座 区民一般を対象とした地域活動に関する教養講座等 ・連携講座 区が実施する人材養成講座等を単位として認定 ・選択講座 コミュニティカレッジが実施する地域活動に役立つ養成講座</p> <p>(3) その他 入学式、修了式、学園祭や修了生の活動支援を行う。</p>						
経過	<p>平成19年度 荒川区生涯学習推進計画策定(平成20年3月) 重点目標の新たな取り組みとして提示</p> <p>平成20年度 (仮称)あらかわ地域大学構想懇談会の設置(12月~21年3月)</p> <p>平成21年度 (仮称)あらかわ地域大学構想策定(3月)</p> <p>平成22年度 名称「荒川コミュニティカレッジ」の決定(5月) コミュニティカレッジ開校・1期生入学(10月)</p> <p>平成23年度 2期生入学・1期生2年次開講(10月)</p> <p>平成24年度 1期生修了(9月)・3期生入学(10月)</p> <p>平成25年度 2期生修了(9月)・4期生入学(10月)</p>						
必要性	区と区民とが協働し、「幸福実感都市」を実現するための基盤づくりとして、地域社会を担う人材を育成するために必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		4,265	503	35,745	12,945	13,253	13,057
決算額(26年度は見込み)		3,404	123	27,680	7,560	8,045	8,210	12,664
人件費等		2,118	4,724	23,022	23,604	26,532	24,973	
減価償却費				11,620	17,105	19,039	17,137	
【事務分担量】(%)		25	65	400	550	590	507	
合計(+ +)		5,522	4,847	62,322	48,269	53,616	50,320	12,664
特定財源	国							
	都							
その他				480	1,050	993		
一般財源		5,522	4,847	61,842	47,219	52,623	50,320	12,664
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	入学生数(人)	-	-	85	41	55	54	60
	修了生数(人)	-	-	-	-	63	29	46
	修了後の活動割合(%)	-	-	-	-	90	90	90

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼等	2,257	報償費	講師謝礼等	2,878	報償費	講師謝礼等	3,880
負担金補助等	サンパール負担金	2,068	負担金補助等	サンパール負担金	2,174	負担金補助等	サンパール負担金	3,770
需用費	消耗品、印刷製本	1,560	委託料	清掃委託、光熱水費	1,301	需用費	消耗品、印刷製本	2,367
委託料	清掃委託、光熱水費	1,358	需用費	消耗品、印刷製本	939	役務費	電話料等	765
役務費	電話料等	495	賃金	臨時職員賃金	546	委託料	区報特集号作成	580
使用料等	会場使用料等	184	使用料等	会場使用料等	205	賃金	臨時職員賃金	576
備品購入費	備品購入	125	役務費	電話料等	133	使用料等	会場使用料等	576

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	修了生数（合計）		63	92	138	180	修了生の延べ人数
	修了後の活動割合（％）		90	90	95	95	活動に取り組む修了生 / 全修了生
	新たに立ち上げた地域活動団体数		7	2	5	5	

（問題点・課題分析）	コミュニティカレッジの目的や役割を広く周知し、継続的に受講生を確保する必要がある。 修了生が学びを活かし地域で活動できる支援体制が必要がある。 受講生の知識、能力、経験、希望等を考慮したカリキュラムの編成及び支援の必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 人材育成のための長期間の講座を実施している区。それぞれの区で目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	コミュニティカレッジの目的や役割をより多くの区民に知ってもらうため、地域のイベントでのブース出展や、修了生の活動PR等を行い、コミュニティカレッジの周知につなげる。	平成26年度の取組内容の効果を検証し、在校生・修了生の主体的な地域活動を積極的に支援し、アピールしていく。
	関係課や関係団体等が実施する、環境や健康・福祉等の地域活動に関する人材育成講座と連携するなど、充実した地域活動につなげるための連携を深める。	さらに関係課や関係団体等とのネットワークを拡大し、活動に関する情報提供等を行う。
	受講生が主体的に地域活動に取り組めるようにするため、受講生の知識、能力、経験、希望等を考慮したカリキュラムの編成及び支援する。	引き続き、カリキュラムの内容等の見直しや修了後の支援を行う。また、受講生がより主体的に地域活動へ取り組むための支援を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民が学びの成果を活かして主体的な地域活動に参加できるように学習する場として必要である。

議 会 要 質 問 状 況	H25決特	現状と今後の展望について
	H25予特	受講生・修了生の活動の場について
	H24一定	町会との連携について
	H24予特	修了生の状況について
	H23決特	1年間実施しての成果（評価）について

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-01-03	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	教育褒賞費		部課名	教育委員会事務局教育総務課	課長名	丹	
			担当者名	境田	内線	3312	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-01	教育褒賞費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	58年度	根拠	荒川区教育委員会褒賞要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区教育委員会褒賞施行細則		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	教育・文化に関する行事や大会において優秀な成績を収めたことにより、荒川区の名を高め、教育に大きな影響を与えた児童、生徒、学校教育、社会教育関係者等に対し、教育委員会が褒賞を行う。						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内に在住、在学若しくは在勤する者又は区内の団体で、全国・関東レベルの大会及びコンクール等において、優秀な成績を収めた場合</li> <li>・文部科学省後援検定等で卓越して優秀な成績を収めた場合</li> </ul>						
内容	<p>（褒賞の方法） 候補者の推薦 教育委員会事務局各課及び荒川区立学校の長が、候補者推薦者を必要な書類を添えて委員会に提出する。 褒賞の決定 荒川区教育委員会褒賞審査会の意見を聴いて被褒賞者の決定をする。 褒賞の方法 被褒賞者に対して賞状等を贈呈。原則として個人、団体につき各1枚又は1品とする。 褒賞の時期 対象者の年度の実績が把握できる3月に実施をしている。</p> <p>【主な褒賞内容と件数（平成25年度）】 英検・数検・漢検 合格（上級学校卒業程度）51名 全国新聞スクラップコンクール 上位入選 6名 全日本卓球選手権 入賞 5名 国民体育大会キンボール競技 入賞 7チーム</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年度までは、刻印した楯を授与。</li> <li>・平成9年度より賞状と記念品（楯）を贈呈。</li> <li>・平成10年度以降は、簡素化を図り贈呈式を年1回（3月）とする。</li> <li>・平成13年度から区レベルの行事又は大会について、対象を3年連続優勝以上の者から3年・5年・10年連続優勝を対象とし、10年連続時で最後とする。児童・生徒については、従前どおり。</li> <li>・平成14年度 審査会の構成の改正（教育委員及び事務局次長の職にある者から、部長、課（室、館）長のうち必要な職員に改正。文化関係団体の対象者については、各関係行事のうち上位5%以内に入賞したものを対象とた。</li> </ul>						
必要性	褒賞することにより、教育・文化に関する行事や大会において受賞者の励みになる。						
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>&lt;贈呈式&gt;平成11年度から4区分に分け贈呈式を行う。 子ども文化（小中高） 子どもスポーツ（小中高） おとな文化 おとなスポーツ</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	514	591	577	691	852	857	767	
決算額（26年度は見込み）	426	565	537	601	480	448	767	
人件費等	1,694	1,629	1,744	2,541	2,478	2,495		
減価償却費			581	933	968	1,014		
【事務分担量】（%）	20	20	20	30	30	30		
合計（+ +）	2,120	2,194	2,862	4,075	3,926	3,957	767	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	2,120	2,194	2,862	4,075	3,926	3,957	767	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
子ども文化（小中学生）	102	110	115	159	111	100		
子どもスポーツ（小中学生）	46	54	59	63	67	66		
高校生・おとな文化	7	10	12	11	12	15		
高校生・おとなスポーツ	23	15	23	21	27	31		

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	消耗品（記念品等）	480	需用費	丸筒購入・賞状印刷等	410	需用費	丸筒購入・賞状印刷等	540
	・楯	58	使用料等	会場・付帯設備使用料	38	役務費	賞状筆耕料	175
	・メダル	176				使用料等	会場・付帯設備使用料	52
	・筒・手提げ袋等	68						
	・賞状印刷	68						
役務費	筆耕料（部分筆耕）	71						
使用料及び賃借料	会場使用料	39						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	受賞率（％）	1.08	1.084	0.991	0.90	0.90	受賞者数÷区内小中高児童生徒数 (4月1日現在)（個人）
	受賞数	23	23	34	23	23	小中高受賞団体数

（問題点・課題分析）	<p>受賞者数が年々増加傾向となっている。</p> <p>一方で、対象の拡大を求める声もあり、改めて本事業の目的等を踏まえ、他区制度と比較検討しながら、対象・基準・授与するもの、式典の運営等について、そのあり方を見直す必要がある。</p>
	<p>（実施 18 区 未実施 4 区 不明 0 区）</p> <p>未実施区（中央区、文京区、大田区、葛飾区）</p>

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	児童・生徒及び区民の文化活動・スポーツ活動等を表彰する場として継続して実施する。

（議会要旨）	
--------	--